

AEROTACT & AIR HEART

ギアニュース

GEAR NEWS

Vol.7 2025 February

New Glider Impression

新作グライダー情報

NIVIUK ARTIK 7 P / アーティック 7 P

NIVIUK HIKO / ヒコ

NIVIUK HIKO P / ヒコ P

New Gear Infomation

新作パラグライダーギア情報

AEROTACT BLACKBIRD LIGHT
/ ブラックバードライト

AEROTACT BLACKBIRD RACE
/ ブラックバードレース

扇澤&藤野 ワンポイントアドバイス
あなたはグライドパスを感じていますか？

Information

NEO取り扱いのお知らせ

試乗会レポート

第27回バリバリ大試乗会 in 紀ノ川

第2回スカイフェスタ宇都宮

ARTIK 7 P



Neon



Earth



Mint

SPORTING PERFORMANCE

スポーツ性能

AIRVUK ARTIK 7 P

アーティック7ピー

サイズ	20	22	23	24	26	28
セル数	66	66	66	66	66	66
投影翼面積 (m ²)	17.31	18.59	19.61	20.89	22.17	23.45
翼面積 (m ²)	20.3	21.8	23	24.5	26	27.5
スパン (m)	11.22	11.63	11.94	12.33	12.7	13.1
投影アスペクト比	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78	4.78
アスペクト比	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2
機体重量 (kg)	3.07	3.22	3.33	3.52	3.65	3.87
フライト重量 (kg)	55-75	65-85	75-95	85-105	95-115	105-125
認証 (EN/LTF)	C	C	C	C	C	C

¥858,000 (税抜: ¥780,000)



AIRHEART



良く飛ぶグライダーに共通して言えることは「降ろすことが大変」なことではないでしょうか。ARTIK7Pは、軽い操作に加えて広いコントロールレンジを持ったグライダーと言えます。ランディングにおけるコントロールはとても緊張するものですが、十分なコントロール域を使った速度調整によって、余裕のあるランディングアプローチができるでしょう。私たちが推奨しているスローターンを用いれば、さらに安定したランディングアプローチができると思います。

NIVIUK ARTIK7P インプレッション

NIVIUKの新モデルARTIK7P。昨今のCクラスは2ライナーがトレンドになっていますが、ARTIK7Pは3ラインコンセプト。IKUMA3などと同様2.5ライナーとなっています。また、これまでNIVIUKではCクラスの軽量モデルが用意されていませんでしたが、今回のARTIK7PはPを冠しているとお期待の軽量モデルになっています。しかし、ノーマル生地のARTIK7を作る予定はなく、もう一つのCクラスモデルであるARTIK-R(2ライナーモデル)との2本立てとなるようです。ARTIK7Pは、果たしてこれまでのARTIKとどう変わったのか?あるいは変わらないのか?そんなところを感じてみたいと思います。

不安なくテイクオフできる ライズアップ性能

今回のARTIKは、軽量モデルとしての用途を十分に吟味した上での味付けになっています。生地は上面にDokdo32と25を、下面にはDokdo25、リブにはDokdo32とスカイテックス27が使用され、23サイズ(75-95Kg)では機体重量3.33Kgを達成しています。この軽さは、Hike & Flyにおける装備重量だけでなく、軽いライズアップ特性から少々コンディションの悪い離陸ポイントにおいても、圧倒的な安心感をもたらしてくれます。そのような謳い文句を確認するように、ほぼ無風のコンディションでライズアップを試みましたが、まさに驚くほどの軽い感触で頭上まで上げることができました。ノーマル機と比較すると、Aライザーにかかるテンションは頼りなさを感じるほどですが、それでもゆっくりと着実に頭上まで上がってくれる特性は、自分が上手くなったと錯覚するほどです。特にフロントライズアップがお世辞にも上手とは言えない自分でも、なんの不安もなくテイクオフできるのは感動すら覚えます。Cクラス機であることを考えると、ライズアップ性能が安定かつ簡単であることは、とても重要な性能と言えるでしょう。

上位機に迫るパフォーマンス

実際のフライトに際しては、セル数66で展開アスペクト比6.2から生まれる滑空性能はこれまでのARTIK6を超えるのはもちろん、上位機のKLIMBER3Pに迫るパフォーマンスが与えられています。サマーソアリングをした感覚は、操作がとにかく軽い印象で、それでいてわずかなブレーク操作に対してダイレクトな反応があるのは、上級者にとって使いやすく楽しい操作感ではないかと感じます。個人的には好きなフィーリングです。特に少ないインプットでしっかり反応してくれる特性は、長時間フライトしても疲れないのでありがたいですね。逆に、Bクラスからステップアップで乗り換えるパイロットにとっては、Bクラスのグライダー特性に依存はするものの、オーバーコントロールに注意が必要なおことは付け加えておきます。

NIVIUKのグライダーでは、3ライナーコンセプトのモデルにC2Bシステムが装備されています。これは、アクセル使用時などのコントロールをCライザーで行うためのものですが、CライザーとBライザーが連結されており、Cライザーの引き量に応じてBライザーも引かれることで翼形を保ちながら迎え角を変化させるシステムです。C2Bを上手に使うには、Cライザーだけを持って操作するのではなく、C2Bシステム(BとCを連結している桁状のテープ)も一緒に持って操作することです。そうすることでスムーズなC2Bシステムの効果が得られるようになります。ぜひ、お試しください。

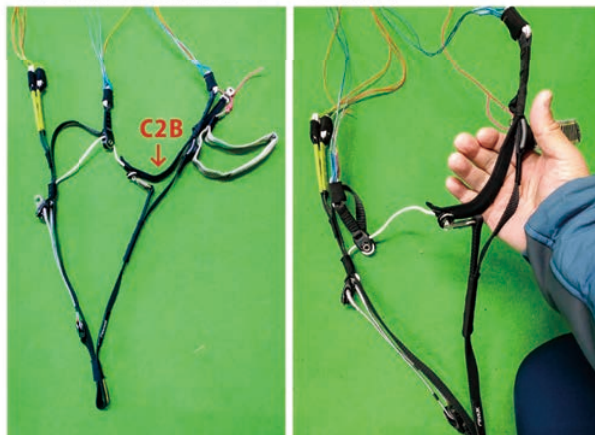


まとめ

今回のARTIK7Pは、NIVIUKのCクラスで待望の軽量モデルとなります。また、Cクラス機の2ライナー化によって3ライナー機が希少になりつつある昨今では、ステップアップを目指すパイロットにも安心の選択肢を与えることにもつながります。今や軽量モデルはHike & Flyをするための道具にとどまらず、普段飛びにおいても十分な耐久性を備えています。軽量機は一般的にリアクションが小さくなる傾向もあり、フライト中も安定した挙動を見せるため、上昇志向のパイロットにとっての選択肢としても申し分ないかと思います。

軽いということは、単に重量だけの問題ではなく、操作感、取り回し、パイロットに与える負担など、様々な点でメリットをもたらしてくれる性能だと思います。軽量を一つのカテゴリーとして扱う時代は終わりつつあります。ぜひ、このARTIK7Pでより簡単に安全に、空の世界を楽しんでください。

▼BとCを連結している桁状のテープ ▼C2B持ち方



REPORT :
(有)エアハートコーポレーション
藤野 光一

AIVIUK

HIKO

ヒコ

確かな進歩

PROGRESS WITH TOTAL CONFIDENCE



River



Clay



Motmot



Lavande

サイズ	20	22	24	26	28	30
セル数	55	55	55	55	55	55
投影翼面積 (m ²)	17.51	18.62	20.33	22.04	23.75	25.63
翼面積 (m ²)	20.5	21.8	23.8	25.8	27.8	30
スパン (m)	10.62	10.95	11.44	11.91	12.37	12.85
投影アスペクト比	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18
アスペクト比	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
機体重量 (kg)	4.02	4.23	4.59	4.88	5.1	5.43
フライト重量 (kg)	50-75	65-85	75-95	85-105	95-115	105-128
認証 (EN/LTF)	B	B	B	B	B	B

¥682,000 (税抜: ¥620,000)



AIRHEART

NIVIUK HIKO&HIKO P インプレッション

NIVIUKから新しくリリースされたHIKOに乗りました！カテゴリーはEN-Bになります。NIVIUKでは同じくBクラスにHOOK6とIKUMA3があります。果たして、同じクラスにもう1機種必要なのかという疑問がありました。その疑問はフライトとともに吹き飛びました。

アスペクト比で比較すると、HOOK6=5.3、HIKO=5.5、IKUMA3=5.7となります。HOOK6とIKUMA3ではアスペクト比に0.4の開きがあり、HIKOはちょうどその中間と言う位置づけになります。この0.2ずつ刻まれたアスペクト比にはどのような違いがあるのかフライトが楽しみになってきました。



キャノピーを広げて見ただけでは、HOOK6とアスペクト比の違いはあまり感じませんでした。ただ、エアインテークを見るとIKUMA3っぽい。そんな印象でした。

インフレーションはいたって良好。同じ時期にリリースされたタンデム機TAKOO6に乗った時もそうですが、最近のNIVIUKグライダーは、翼の立ち上がり特性がより良くなっているように感じます。以前から適度な力を加えたと一様のスピードで翼は立ち上がってくれましたが、その時に必要な力はやや軽くなり、インフレーション時のストレスが軽減されています。

テイクオフ直後は渋めのサーマルコンディション。山際の弱めのサーマルで上昇を試みましたが、旋回特性はまさしくHOOK6とIKUMA3の間。HOOK6はほぼオートマチックに旋回してくれて、IKUMA3はある程度パイロットが適切な操縦をインプットする必要があるイメージでしたが、HIKOは完全なオートマチックではないものの、IKUMA3ほど気を使わなくても大丈夫そうです。その後、サーマル活動は活発になり、その中でもしばらく飛びましたが、同じ印象でした。速度範囲に関しては、同じサイズで3機種を比較するとHIKOとIKUMA3はHOOK6よりやや狭くなります。



ランディングアプローチ

グライダーを乗り換えた時、最も難しく感じるのがランディングアプローチです。クラスが上がれば、速度は速くなり、サーマルへの反応も良くなります。空中ではありがたいこの特性はアプローチを難しくさせます。

1機目KOYOT5からの乗り換えでHOOK6と言う場合、あまり苦労せずアプローチできるのは、HOOK6はKOYOT5同様に低速が効くためだと思います。

HOOK6からIKUMA3に乗り換えた方でアプローチに苦労している様子をたまに見かけます。

上記はあくまでも私の印象ですが、アプローチでストレスを感じるようですとフライトの面白みが半減してしまいます。特に日本ではランディングが狭い場所が多いので、アプローチは余力をもって臨みたいところです。そのような意味で、HOOK6からもう少し性能を上げてHIKOと言う選択は、アプローチでのストレスもあまり感じず良いように思います。



HIKO P インプレッション

まず広げて見ると、サラサラとした質感から、生地は最近のNIVIUKが使用している軽量生地が採用されているのがわかります。ライザーはHIKOと同じもので、軽量を追求しすぎず使用しやすさを優先した作りとなっています。テイクオフはKLIMBER3P譲りの簡単さ。ほんの少し力を加えてあげると紙のように起き上がってきます。感動的な立ち上がりです。空中での印象は、翼が軽い分、ノーマル版に比べるとやや動く感じがしました。ただ、サーマルに反応しやすいという点では、操縦をマスターする上で感じておくべき動きかもしれません。その他は、HIKOと大きな違いは感じませんでした。

パッキングに関しては、生地が滑りやすいということもあり、コンセルチナバックを使用するのが良さそうです。

まとめ

さてさて、総括です。HIKO&HIKO Pの選択肢としては3機目でちょうど良いのではとの印象です。3機目=ハイエンドBでは少々荷が重い。2.5ライナーとか難しそう…。それでもオートマチックなHOOK6からさらに操縦を覚えてステップアップを、と言う方にぜひオススメしたいグライダーです。

Report :

富士見パノラマパラグライダースクール
校長 岡田直久



HIKO P

ヒコピー

AIVIUK



軽快に進化

EVOLVE WITH LIGHTNESS



Tekno



Citrik



Flamingo

サイズ	20	22	24	26	28
セル数	55	55	55	55	55
投影翼面積 (m ²)	17.51	18.62	20.33	22.04	23.75
翼面積 (m ²)	20.5	21.8	23.8	25.8	27.8
スパン (m)	10.62	10.95	11.44	11.91	12.37
投影アスペクト比	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18
アスペクト比	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
機体重量 (kg)	2.99	3.14	3.32	3.51	3.67
フライト重量 (kg)	50-75	65-85	75-95	85-105	95-115
認証 (EN/LTF)	B	B	B	B	B

¥737,000 (税抜: ¥670,000)



AIRHEART

AERFACT

BLACKBIRD

ブラックバードライト

Light



The Fusion of Light and Comfort for a New Experience.

軽さと快適さの融合で新次元の飛行体験を



サイズ	XS	S	M	L
身長(cm)	~155	155~165	160~175	173~
重量(kg)	2.75	2.85	2.95	3.05

¥217,800 (税抜:¥198,000)

AERFACT

エアロタクトのポッドハーネスをリードしてきたブラックバードの軽量バージョンとして、ブラックバードライトがラインナップに加わりました。高速安定性と長時間フライトの快適性を維持しながら、軽量素材と最新技術を組み合わせ、ブラックバード(Mサイズ)と比べ2.97kgの軽量化を達成しています。具体的にはフロントバックルを廃止し、アルミ製リングを介して接続するタイプに変更しました。また、多くのサスペンションラインにダイニーマラインを採用しています。プロテクションには、独自のハニカム構造を持つneoコロイドプロテクションが新たに採用され、軽量化と安全性の向上に貢献しています。コンパクトな収納性も実現し、ハイク&フライのみならず、フリーフライトでも軽量化のメリットを感じることができるでしょう。



座板のないスプリットレッグシートを採用

重量減とコンパクトな収納性を実現するために、座板のないスプリットレッグシートを採用しています。左右の大腿を独立したレッグシートがしっかりとホールドするので、フライトフィーリングは良好です。



脱着可能なコックピットフェアリング

コックピットフェアリングは、フロント周りの乱流を整えグライダーの滑空性能を引き出すために不可欠なアイテムです。脱着可能なので、取り外した時は付属のネオプレーン素材の専用ケースに納めて持ち運ぶことができ、小傷を防ぐことができます。



バックルに代わる新しい接続システム

ゲットアップタイプのセーフティシステムには、アルミ製のリングを介して接続する新システムを採用しています。トグルと引き手、カラビナ接続部は色分け(左が赤、右が緑)して誤装着を防止しています。



パラグライダー用に開発されたエーデルリッド製 EASE Aerotec カラビナを標準装備。最小重量と最大の強度を確保しました。



滑らかなアクセルワークを実現するために、18mmのHarken プーリーを採用しています。



新採用のプロテクションシステム

円柱状のハニカム構造により衝撃を吸収するユニークなシステムが特徴のneoコロイドプロテクションを採用しました。neo社独自の技術でパラグライダー専用に進化させたプロテクションシステムで、EN、LTF、CEの認定を受けています。ブラックバードライトでは、コンパクトな収納を実現するためにneoコロイド2.3プロテクションを採用しました。



大容量ポケット

バラザックや私物を入れたバッグなどの荷物を入れることを考え、全体のバランスを崩さない範囲で収納容量を最大に設計しています。またシート下にもバラストなどの収納スペースを確保し、ハイク&フライだけでなくビバークフライトなどのアドベンチャーにも使用できます。



専用のブラックバードライトリュックサック(別売)

ブラックバードライト専用のリュックサックも同時に発売しました。ブラックバードライトを収納した時の収まり具合を良好にするために、従来のリュックサックより幅を狭くし縦長にデザイン。背面からショルダーにかけてのホールド性を高めています。



ポッド調整のサスペンションにダイニーマラインを採用することで、軽量化に大きく貢献しています。



レスキューパラシュートコンテナは、右側面後方にレイアウトしました。



レスキューパラシュートのブライダルコードは両肩に接続、軽量リップストップでカバーしています。



フロントには予備バッテリーや小物を収納できるカンガルーポケットをレイアウトして利便性を向上しています。



ショルダーストラップとサイドストラップには、高品質のアルミ製バックルを採用しています。



ゲットアップタイプのセーフティシステム



汎用性を考慮し大型のフィンを採用せず、大容量の収納スペースを確保しています。



背面の収納スペースには、給水システム専用のポケットやホースを導く穴もレイアウトされています。



アクセルシステムは3ステップアクセルバーを採用。それぞれはバンジーコードで接続して使いやすさを実現しています。

製品名	BLACKBIRD LIGHT (ブラックバード ライト)
定価	217,800円(税抜価格 198,000円)
品番	PN-SOBBL
メーカー	エアロタクト
カテゴリ	中級～上級モデル
クラス	ポッドハーネス
カラー	ブラック
付属品	エーデルリッド EASEカラビナ、neoコロイド2.3プロテクション、3ステップアクセルバー

AER TACT

ブラックバードレース

BLACK BIRD

Race

未来の風を掴め。

Catch the Wind of the Future.

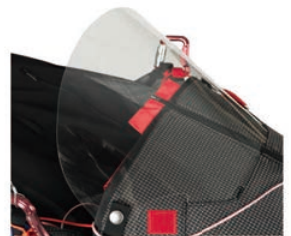


¥368,500 (税抜: ¥335,000)

サイズ	XS	S	M	L
身長 (cm)	~155	155~165	160~175	173~
重量 (kg)	7.7	8.0	8.4	8.9



エアロタクトのポッドハーネスをリードしてきたブラックバードのレースバージョンとして、ブラックバードレースがラインナップに加わりました。パラグライダーのパフォーマンスを最大限に引き出すシステムを備えた、大型のフィンを持つコクーンハーネスです。コクーンの開閉は、右側のレッドのラインで閉じ左側のホワイトのラインで開けるデュアルジップシステムを採用し利便性を高めています。快適性を維持するために袖のないベストタイプとしたことで、パイロットは体格や衣類の厚さなどで生じる窮屈さを感じることはありません。また可能な限りセッティングシステムをシンプルにして、ベストポジションをとりやすいようにデザインしています。



大型のフィンを持つコクーンハーネス
パフォーマンスを最大限に引き出すために不可欠な大型フィン、パイロットの頭部や腕が生み出す乱流を整える効果があります。カラーもホワイトとしたことで、フライト中、他機からの視認性が高まります。

脱着可能なコクピットフェアリング
コクピットフェアリングは、パラグライダーのパフォーマンスを引き出すための必須アイテムです。脱着式で、収納時は専用ケースに納めて持ち運びができます。ネオプレーン素材でできているので、小傷を防ぐことができます。



利便性を考慮したフライトデッキ
フライト中の視認性に優れたポジションにフライトデッキをレイアウトしました。フライトデッキは2カ所のアルミ製トグルとマジックテープで簡単に着脱できます。また、電子デバイスの給電に不可欠なモバイルバッテリーなどを収納するポケットも裏側にレイアウトしています。



大容量のプラストコンテナ
コンペションで不可欠なプラストコンテナは、テイクオフ時にはショルダーストラップに接続された2つのプラスチックバックルで支え、フライト中はサポートピラーに接続された4個の金属製バックルで支えます。もちろんプラストコンテナなしでもフライトができます。



新採用のプロテクションシステム
ブラックバードライトに続いてneoコロイドプロテクションを採用しました。neo社独自の技術でパラグライダー専用に進化させたプロテクションシステムで、EN、LTF、CEの認定を受けています。大型で屈曲性があるneoコロイド3.0プロテクションを採用しています。



大容量ポケット
パラザックや私物を入れたバッグなどの荷物を入れることを考慮し、背面に全体のバランスを維持しながら最大限の収納容量を確保した大容量ポケットを設けました。また、シート下にもプラストなどの収納スペースを確保しました。



専用のブラックバードレースリュックサック
ブラックバードレース専用のリュックサックが付属しています。このリュックサックは、ブラックバードレースを簡単に収納できる大容量でありながらも、パッキングのしやすさや持ち運びの利便性を考慮したデザインが特徴です。



ハーネス側面両側にフィン専用のエアインテークを配置し、ホースを内蔵しているため濡れ心配がありません。



ダブルレスキューパラシュートにより、両側にコンテナを配置。フラップはマグネット式でスムーズなオープンが可能です。



プラストコンテナは、2つのプラスチックバックルでショルダーストラップに接続され、4個の金属製バックルでサポートピラーに固定されます。誤装着を防止するために、カラーで識別されています。



厚いパッドを持つショルダーストラップが、パイロットの上半身をしっかりとホールドします。



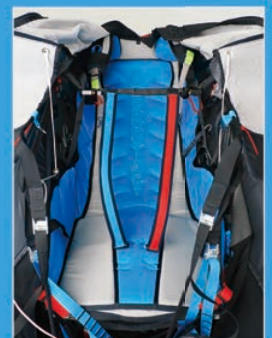
袖のないベストタイプを採用し、パイロットの快適性を向上させています。



滑らかなアクセルワークを実現する18mm Harken フリーを採用しています。



大型のサイドハネルがパイロットを包み込むようなサポート性を提供します。



ゲットアップタイプのセーフティシステムは、縦長の座面からシートバックまで一体化しており、高いホールド性を実現しています。



両側の取り出しやすい位置にアクセサリポケットがあります。



ドラッグシュート専用ポケットは左右どちらからでもアクセス可能で、ラビッドリングでハーネスに接続されています。



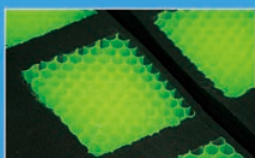
アクセルシステムは3ステップアクセルバーを採用。それぞれハンジーコードで接続し、使いやすさに配慮しています。



シートプレートの下にもプラストなどを収納できるポケットを配置しています。



アルミ製のサポートピラーでフロント周りの形状を整え、4カ所のバックルでプラストコンテナを支えます。



neoコロイドプロテクションは、円柱状のハニカム構造により衝撃を吸収するユニークなシステムが特徴です。

製品名	BLACKBIRD RACE(ブラックバード レース)
定価	368,500円(税抜価格 335,000円)
品番	PN-SOBBR
メーカー	エアロタクト
カテゴリ	上級モデル、コンペティション
クラス	ポッドハーネス
カラー	メイン/グレー×ブラック
付属品	エアロタクト アドベンチャーミニ OS、neoコロイド3.0プロテクション、3ステップアクセルバー

じっくり考えてみたい、パラグライダーの
豆知識などをお伝えいたします。

扇澤&藤野の ワンポイント アドバイス

あなたはグライドパスを 感じていますか？

Vol.6

執筆者：藤野光一

今回のテーマは「グライドパス」です。朝霧のパフォーマンスセンターで皆さんと一緒に飛んでいると、グライドパスを意識していない方が少なからずいらっしゃることに気づきます。パラグライダーは滑空機であるため、グライドパスは非常に重要な要素だと私は思っています。

グライドパスとは？

まず、「グライドパス」とは何か？についてあらためて説明します。グライドパスとは日本語に訳すと「滑空角」となります。読んで字のごとく「滑空して行く角度」のことです。例えば、単純に滑空比10で滑空して行く場合（底辺が1000m、高さが100mとした場合）は約5.4度の角度で滑空して行くこととなります。もちろん、この場合大気の影響は考えないものとします。



あるある

1

この高さでランディングまで帰れますか？

よくある質問です。私も結構この質問を受けます。しかし、私はその場所にいませんし、状況を全て把握できるわけではないので、答えは「わかりません」となってしまいます。まだ高高度フライトを始めて間もないスクール生ならば致し方ない質問かなと思いますが、パイロットはそうはいきません。なぜならば、自分がどこに向かって飛んでいるかを把握してないということになってしまうからです。

このような場合も、自分でグライドパスを把握していれば、おおよその範囲で届くかどうかの判断がつくようになります。

あるある

2

ランディング精度が悪い

一定の条件の時ならば、ランディングのターゲット付近に降りることができる方であっても、少し風の強さや風向きが変わっただけで途端にランディング精度が悪化してしまう事例が見受けられます。このような方は、ランディングアプローチ時に「ターゲットを見て、グライドパスを感じ、利用する」ことができていない場合が多いです。今の自分がどこに向かって飛んでいるのかわからない限り、狙った場所に降りることは不可能なのです。

動かない点を探す

では、そのグライドパスはどうしたら身に着くのでしょうか？結論から言うと「常日頃から意識して訓練するしかない」と言うことになるのですが、そもそもどのような現象なのかを理解しないことには練習のしようもありませんね？

到達できない範囲

自身のフライトを思い出して欲しいのですが、パラグライダーでフライトしている場合において、自分が到達できない範囲の視界は必ず自分の目線から上に移動して行くことになります。届かない場所を凝視していると、視線が上がって行くということです。

到達できる範囲

自分のグライダーがそこまで確実に到達できる場合は、その視界は自分の方に接近してきます。その場所を凝視した場合は視線が下がって行くことになります。

到達点・着陸点

では、自分のグライダーがピンポイントで到達する場所はどうなるのでしょうか？それは、その場所が静止点になっています。俗に「動かない点」と言っていますが、それが現在のグライドパスと言うわけです。これを日頃のフライトで探す訓練を行うことが重要となります。ランディングの場合も、ターゲットを見てその視線が動かないようにグライダーをコントロールする必要があります。言葉では簡単ですが、なかなか難しいことではありますので、常に意識して取り組んでみてください。

グライドパス体感法

セミナーなどで私が伝えている「グライドパスを体感する方法」をご紹介します。とても簡単です。駅やショッピングセンターなどに行ってエスカレーターに乗ってください。できれば、吹き抜けなどになっている広い場所にあるエスカレーターが理想です。エスカレーターには目的に応じて3回乗ります。

1回目は、届かないイメージを体感します。エスカレーターの降りて行く場所ではなく、その前方の景色を見ます。すると、説明した通り自分の目線が上がって行くはずですが。

2回目は、通り過ぎるイメージを体感します。エスカレーターの途中にある階下の景色を見ます。自分が下るにつれて目線が下がって行くのがわかるはずですが。

最後は到達点を体感します。エスカレーターで自分が降りるステップを凝視します。視線は先の2回と違い動かないはずですが。そこに向かって移動しているのですから当然ですね？



まとめ

最近はフライト機器が進歩して到達範囲を明示してくれる場合もあります。コンペなどではゴールに届くと教えてくれるようになりました。しかし、やはりパイロットたるもの、自身の判断で届く、届かない等の判定ができるべきだと私は思います。機械は万能ではありませんし、グライドパスも周囲の影響（風やサーマル、自身のグライダー操作など）を受けて常に変化します。それをしっかりと感じ、把握してフライトすることができれば、広い意味でリスクを下げることに繋がります。クロカンやコンペでも自信をもって次の場所へグライドすることができるでしょう。

これらのことが十分に身につけていないと感じている方は、グライドパスを意識することに取り組んでください。それがあなたのフライトに、必ず役に立つことになると思います。

それでは、次のワンポイントアドバイスをお楽しみに。

12月7日(土)、8日(日)に和歌山県の紀ノ川エリアにて、西日本で最大の試乗会「バリバリ大試乗会」が開催されました。UPパラグライダースクールが主催する当試乗会は、今年で27回目と歴史があり、「毎年12月といえばバリバリ大試乗会!」と言うほど多くのメーカーや来場者で大盛況のイベントです。また、関西の府県連盟からのご協力もあり、紀ノ川エリアのみならず、関西一円でイベントを活性化しています。今回、アエロタクトからは私、只野と佐藤(京都出身)、エアハートからは藤野が参加して参りました。この試乗会の数日前に絶好のタイミングで到着した最新のブラックバードライトハーネスをはじめ、リリース前だったブラックバードレース(2025年初旬にリリース)も用意し、多くの方に見て触れて乗っていただくために、シミュレーターを増設。試乗機についてもフルラインナップを取り揃え準備万端です。

7日(土)は、冬型の気圧配置でフライトが難しいと思っていましたが、なんとか午前中は飛ぶことができました。しかし、天気予報が不安定だったため、来場者は例年の3分の1ほどのことでした。それでも、夕方まで多くの方がブースにお越しになり、各種ハーネスを試していただくことができました。昔からの顔なじみの方から、はじめてお目にかかる方まで、多くの皆様とアエロタクトの商品を紹介しながら楽しく交流させていただき、大変有意義な時間となりました。

REPORT Theoのデモフライトに釘付け!

第2回宇都宮スカイフェスタ

2024年12月14日(土)~15日(日)、第2回宇都宮スカイフェスタが開催されました。天気予報は強めの北西風でしたが、さすが宇都宮です。2日間とも良好な天候に恵まれました。来場した皆さんは、気になるモデルを試乗したり、最新ハーネスなどをチェックしたりと、それぞれ充実した時間を過ごされたようです。



ダイナミックかつ正確なグライダーコントロールを披露するtheo

大注目だったのは、イベントに合わせて来日したTheoのデモフライトです。来場者全員の視線を集める中、完璧なヘリコプターやウイングオーバーを披露。今回、Theoが持ち込んだGLITCH(全6サイズ)は、スカイパーク宇都宮の高度差を考慮して18サイズ(投影面積15.52㎡)でしたが、それでも上がるコンディションにはならず、インフィニティタンピングは次の機会に持ち越されました。因みにアクロ競技会で使用しているのは最小サイズの13(11.21㎡)です。



Theoのサイン会も開催。NOVAのミニグライダーにサインをしてもらい皆さんご機嫌でした。



Theoは京都や奈良観光の後に、宇都宮にダミーにサインをしてもらい皆さんご機嫌でした。合流、日本滞在を満喫したようです。

定期的で開催することで、東日本のスクールやパイロットだけでなく、ブラッシュアップしながら全国規模のパラグライダーイベントに成長して行けば最高ですね。皆さんの力でビッグイベントに育てて行きましょう。



8日(日)は、さらに冬型が強まり時雨やみぞれが降る場面もありましたが、お昼過ぎまで多くの方が足を運んでくださいました。エアハートのブースでは、暖かいストーブを囲みながら、今ホットな試乗機についての説明をしたり、座談会を開いたりとゆったりとした時間を過ごしました。書籍やネットでは伝えきれない最新情報を、直接お話しさせていただけるのは試乗会ならではのですね。

その後、天候の回復が見込めなかったため、残念ながら早めの撤収となりました。次回2025年バリバリ大試乗会では、良好なコンディションになることを願いつつ、さらに試乗会を盛り上げられるよう万全の準備を整えて参加したいと考えています。次回のバリバリ大試乗会をどうぞ楽しみにしてください。

Report: 只野正一郎(アエロタクト/TAK/パラグライダースクール校長)



広いランディングにパラグライダーが百花繚乱。



往年のコンペ機には人だかりができました。



各メーカーのブースが並び、大いに賑わいました。

今回の宇都宮スカイフェスタの大きな特色は、講習斜面からのショートフライトに限定したことです。たくさんパイロットが思い思いのモデルで試乗を楽しんでいました。90年代に一世を風靡したエルドカやファイヤーバードのコンペ機も登場。懐かしむベテランパイロットや初めて見るパイロットの注目を集め、スカイフェスタの名に相応しく笑顔たっぷりの和やかな雰囲気です。今回のショートフライト参加者は延べ人数で130名ほどで、見学のみの方も多数来場していました。

会場には石窯ピザやタコライス、珈琲、ワッフルサンド、ホットドッグなどのキッチンカーの出店もあり、終日ゆったりリラックスして過ごすことができました。

Report: 小貝哲夫



キッチンカーの出店もあり、思い思いにランチを楽しみました。



アエロタクトで新たに「neo」の取り扱いが始まります。

neoはエリック・ルーセルが2013年に立ち上げたミニパラグライダーとハーネスのブランドで、フランス・アネシー湖畔の工房で次々とユニークな製品を生み出しています。近年はバックパックなどのアウトドア関連製品もリリースしています。

neoの特徴は、開発から設計・製造まですべてアネシーで行っていることです。彼らはアネシーで製造し続けることに大きな誇りを持ち、パリのオートクチュールのように、一つ一つ丁寧に自分たちの手で作り上げています。完成した製品の仕上がりからは、彼らの思いを感じ取ることができるでしょう。

MADE IN FRANCE



アネシーで作り続けることへの情熱が、革新的な製品を生み出す原動力になっています。

エクスアルプスでも活躍している

ウルトラライトポッドハーネス

Stay Up 2.0

(ステイアップ 2.0)



定価
税込価格 ¥396,000
(税抜価格: ¥360,000)

タイプ	ウルトラライトクロスカントリー
付属品	カラビナ、ライト3ステップスピードバー、コンテナライト 2.0
重量	1.45kg (M/プロテクター別) ※プロテクター込み1.95kg
サイズ	S、M、L、XL
プロテクター	NEO-Koroyd 2.3 (厚さ8cm、重量270g)
認証	EN1651 (CE)

オプション	ライトバッグ70リットル (税込 ¥69,300)、90リットル (税込 ¥74,800) ハーネスと同時にライトバッグをご購入いただいた場合、特別価格が適用されます。
	■70リットル: 税込 ¥69,300 → 【特別価格】 税込 ¥55,000
	■90リットル: 税込 ¥74,800 → 【特別価格】 税込 ¥55,000
	*ライトバッグは、それぞれのサイズにメンズモデル、レディースモデルがございます。

メンズモデルとレディースモデルがある バックパック

neoのバックパックにはメンズモデルとレディースモデルがあります。背中の長さや肩幅など、性別による骨格の違いをバックパックデザインに落とし込み、ショルダーストラップやウエストベルトが体型にフィットするように設計されています。素材は、ヨーロッパの繊維メーカーと共同開発した高強度ポリアミドをベースに、ポリウレタンコーティングしたリップストップダイニーマを使用しています。美しい風合いに加え、しなやかさと軽さ、強さを併せ持っています。



ウルトラライトコンバーチブルハーネス

Stringpack 2.0

(ストリングバック 2.0)

定価
税込価格 ¥170,500
(税抜価格: ¥155,000)



タイプ	ハーネス一体型の軽量バックパック
付属品	カラビナ
重量	870g - (M) ※カラビナとプロテクター含まず
サイズ	S、M、L
プロテクター	Koroyd PROPACK (厚さ15mm、重量150g)
認証	EN1651 (LTF/CE)

究極のXCポッドハーネス

Suspender 2.0

(サスペンダー 2.0)



定価
税込価格 ¥467,500
(税抜価格: ¥425,000)

タイプ	セミライトパラグライディング クロスカントリー
付属品	カラビナ、スピードバー、インナーコンテナ、フックナイフ
重量	4.65kg (M)
サイズ	XS、S、M、L、XL
プロテクター	NEO-Koroyd 3.0 (厚さ8cm、重量300g)
認証	EN1651 (LTF/CE)

プロフェッショナルタンデムパイロットの逸品

Bikini

(ビキニ)



定価
税込価格 ¥264,000
(税抜価格: ¥240,000)

タイプ	パイロット用プロフェッショナルタンデムハーネス
付属品	カラビナ
重量	2.73kg (SM)
サイズ	SM、ML
プロテクター	NEO Koroyd 3.0 (厚さ8cm、重量300g)
認証	EN1651 (CE)

2カラー展開のキッズハーネス

Babydoll

(ベビードール)

定価
税込価格 ¥112,200
(税抜価格: ¥102,000)



タイプ	キッズ用ハーネス
付属品	カラビナ
カラー	ブルー、ピンク
重量	S/0.9kg M/1.08kg L/1.3kg (カラビナ含まず)
サイズ	S、M、L
認証	EN1651 (CE)

NEXT ISSUE

次号予告

FLIGHT IMPRESSION

フライトインプレッション

NOVA DOUBLESKIN2

AEROTACT
BLACKBIRD LIGHTAEROTACT
BLACKBIRD RACE

最新X-ALPS情報

ニュージーランド

「WANAKA HIKE&FLY」大会レポート

※掲載内容は変更する場合があります。

有限会社アエロタクトコーポレーション

03-6231-3440

有限会社エアハートコーポレーション

03-6231-3471

〒125-0035 東京都葛飾区南水元 2-26-11 Bell wood bldg.201 号室

注意事項 *掲載商品の仕様、デザイン、カラー及び価格は予告なく変更する場合があります。
 *掲載写真は、印刷のため実際のカラーと多少異なる場合があります。
 *掲載内容、画像、文章、イラストなどの無断転載・無断使用を固く禁じます。